

今夏は、都会も田舎も、とつぜんの大雨や雷におおいに翻弄されたが、自然現象は、なるべくしてなる、なにかのサインにちがいない。天候は、理由なく、いきなり荒れたりはしないはずだ。

自然現象ではないが、家電製品や生活備品が、とつぜん故障したり壊れたりするのにも、正当な理由があるのかもしれない。

さあ、いよいよ夏が始まるぞという矢先、拙店のボイラーが故障し、夜中に電気ブレーカーがおりてしまい、ボイラー修理中の数日間は、大量給湯のない生活を強いられた。

その40日後、さあ、これで夏は終わったという無休の最終日・夕方4時半、とつぜんプロパンガス・メーターが故障し、ガスが止まってしまった。その日は、ウイークデイだというのに拙店は繁盛し、ガスの出番が多かったので、故障が閉店間近の夕方、つくづくほっとしたが。

ー去年は、冬眠あけに業務用のオーブンが故障し、去年は、やはり冬眠明けに30年間無休で働いた冷蔵庫がついに永眠した。

暮らしの支えになっている家電製品や生活備品が、肝心な日にこういう行動にでると、その度ごとに彼らの個人的主張と警告に、耳をかたむけずにはいられなくなる。

「あたしたち、無休で黙々と働いているけどさ、限られた資源なんだから、もっと大事に使ってほしいわ」

「つかれた、つかれたって、おれたちだって、もうくたくた。慰労休暇はないのかなあ？」

電気代やガス料金の支払いのときしか、彼らの存在を思い出さない使用者は、そういう声に気づいて、はっとする。たしかに、冷蔵庫は夜中も働いている。

家電製品が故障するのは、家族の病を替わって背負ってくれるのだと、笑顔で説明解釈してくれた方もいるが、わたしには、家電製品がそこまでお人好しだとは思えない。

なぜって、そういう一方的な解釈は、あまりにも人間が一番えらくて、この世の中心的存在だと大声で言ってるようなものだ。人間の病だけが、この世の不幸だとはけっして思えない。

家電製品は、今のところ、ふだんはだまって黙々と働いてくれるが、天候は、ふだんでも、もうだまっていられなくなったということだろう。